

平成 29 年度前期授業評価アンケート集計結果

2018年2月7日
教務委員 京相 雅樹

1. データ概要

表1 概要

集計科目数	23 科目 (H28:17, H27:17, H26:22, H25:19, H24:15, H23:16)
平均回収率	90.8% (集計科目について、登録者数に占める割合) (H28:88.0%)
実施日	2017年5月16日～8月8日

2. 各項目の評価点

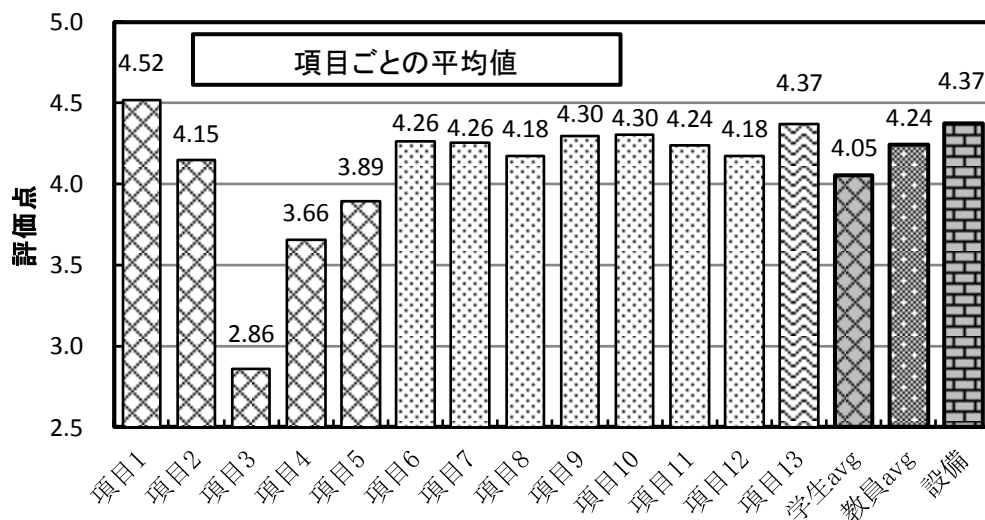


図1 平均評価点

表2 アンケート項目

●学生として
① 遅刻や欠席をせずに出席しましたか
② 居眠りや私語をせず授業に集中しましたか
③ 授業1回に対し宿題を含めた予復習を何時間しましたか(右の数字は時間)
④ わからないときに質問をしましたか
⑤ 授業の内容を十分に理解できましたか
●授業について
⑥ 話し方や説明は分かりやすかったですか
⑦ コンピュータ、黒板などの使い方は適切でしたか
⑧ 教材(テキスト、プリントなど)の使い方は適切でしたか
⑨ 授業計画(シラバス)に沿って授業が展開されましたか
⑩ 授業時間を有効に使っていましたか
⑪ 質問に適切に対応してくれましたか
⑫ 総合的にみてこの授業で力は付きましたか
●施設について
⑬ 教室の広さや設備は適切でしたか

※ 今年度から「授業評価アンケート」となり、質問項目が変更された

3. 科目ごとの評価点

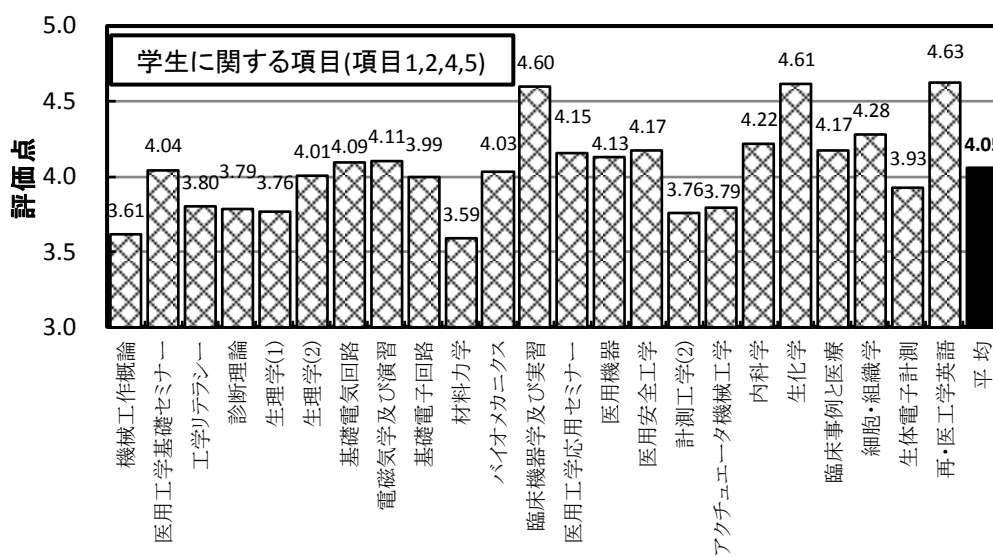


図2 学生に関する項目(項目1, 2, 4, 5の平均)

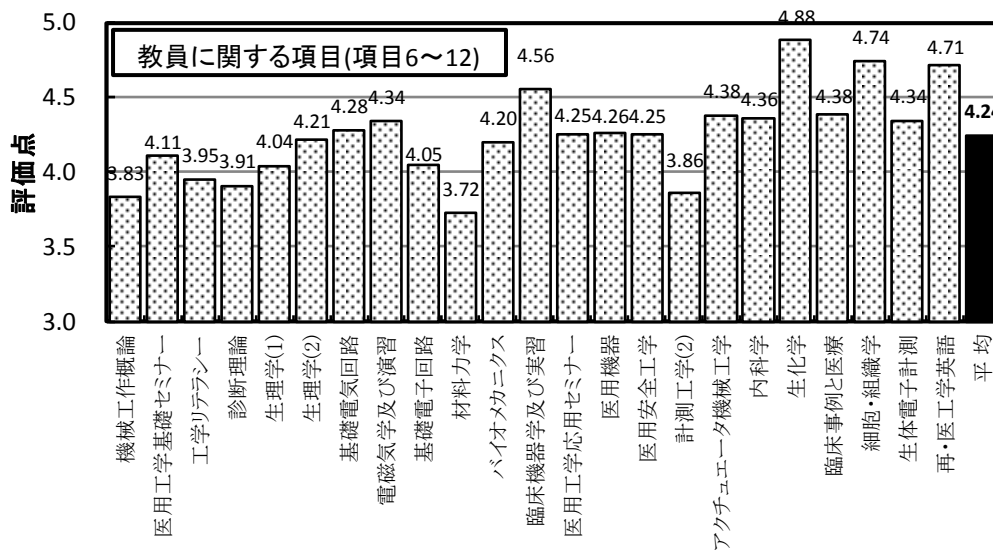


図3 教員に関する項目(項目6~12の平均)

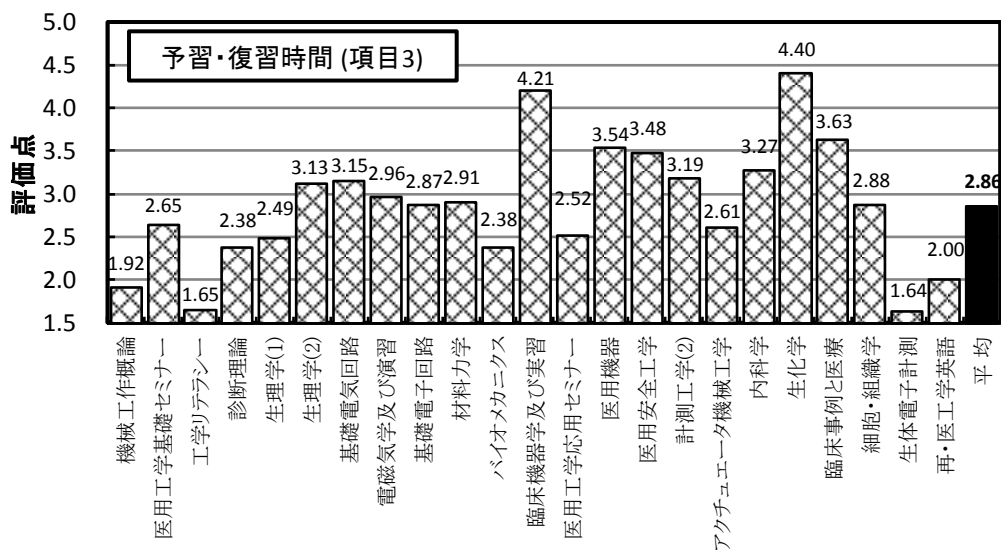


図4 予習・復習時間

4. 対応するアンケート項目の年次推移

表3 対応する項目の年次推移

	集計 科目数	学生 (1-5)	教員 (6-12)	授業出席	理解	質問	聞き取り 易さ	テキスト 配布資料	設備 有効利用	授業計画 準拠
2011年度前期	16	3.95	4.24	4.33	4.01	3.65	4.28		4.34	4.21
2012年度前期	15	4.06	4.42	4.31	4.19	3.82	4.49		4.53	4.43
2013年度前期	20	3.63	4.15	4.36	3.65	3.22	4.24	4.06	4.21	4.14
2014年度前期	23	3.68	4.16	4.39	3.72	3.28	4.25	4.14	4.21	4.12
2015年度前期	21	3.77	4.20	4.47	3.82	3.33	4.28	4.20	4.26	4.16
2016年度前期	17	3.89	4.26	4.47	3.92	3.57	4.34	4.22	4.31	4.22
2017年度前期	23	4.05	4.24	4.52	3.89	3.66	4.26	4.18	4.26	4.30

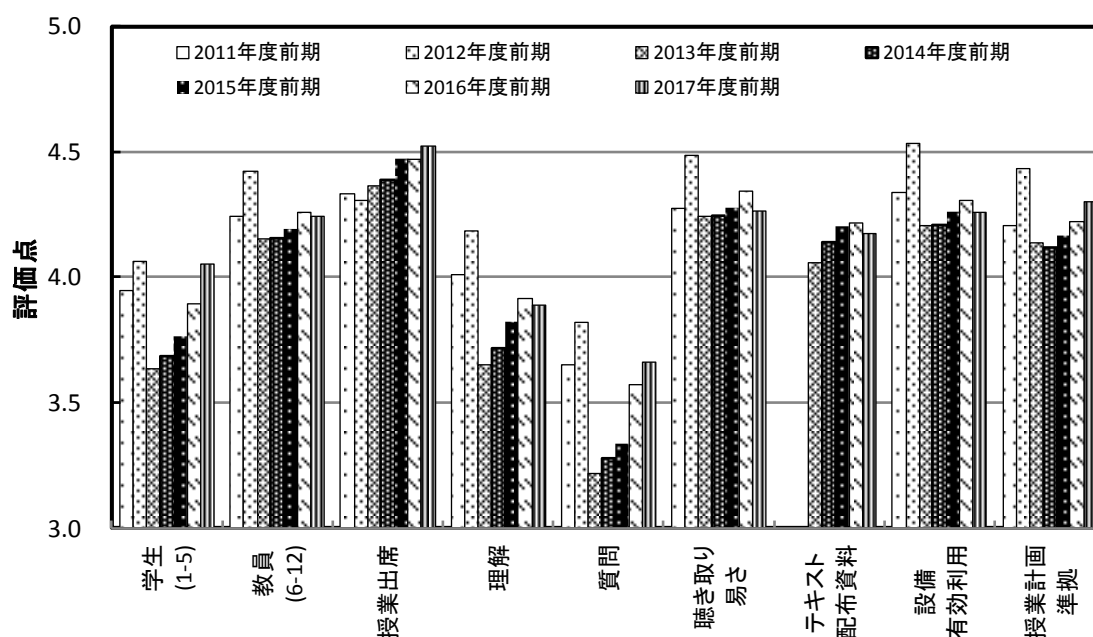


図5 対応する項目の年次推移

5. 各科目の改善に関するコメント

表4 各科目の改善に関する担当教員のコメント (1/2)

授業科目	担当者	学年	コメント
医用工学基礎セミナー	全教員	1	今後も全員が積極的に参加できるようなグループワークとなるよう、様々な仕掛けを用意したい。
工学リテラシー	平田孝道, 桃沢愛	1	演習を中心に解答も含めた内容であるが、一部解答が間に合わなかった回もあったので、その点を改善する予定です。
診断理論	仁木清美	1	知的興味がないのに選択している学生に興味を持たせるのは難しい。質問時間を作っても質問はほとんど無かった。課題を出しているのに予習復習時間が短いのは興味が少ないことと他の教科を優先しているためと思われる。
生理学(1)	島谷祐一	2	教材を見直して、より有効な利用を行いたいと思います。
生理学(2)	島谷祐一	2	効果の項目が低いので、理解しやすい説明を心がけたい。
基礎電気回路	京相雅樹	2	講義や演習の内容を見直して全ての学生の完全理解を目指したい。
電磁気学及び演習	桐生昭吾	2	数人の学生から授業が易すぎるというコメントがあったが、アンケート結果を見る限り、総体としては、妥当だったと思う。難しい話題についても、もう少しつっこんだ説明をするように努力したい。
基礎電子回路	京相雅樹	2	「効果」の項目が低いので、説明の内容を見直して理解度を向上させたい。

表5 各科目の改善に関する担当教員のコメント (2/2)

授業科目	担当者	学年	コメント
バイオメカニクス	桃沢愛	2	学生・教員の項目共に4を超えているため、学生は授業に対してきちんと取り組んでいる様である。授業ごとに予習復習を前提とした小テストなどを行い、より学生の理解度を高める工夫をしたい。
臨床機器学及び実習	仁木, 森, 島谷, 京相, 小林	3	各項目ともおおむね4.5を超えている。さらに実習の説明に関してTAと相談し、改善に努める。
医用工学応用セミナー	全教員	3	進路選択の時期に有用な情報と体験を供給できるよう、改良してゆきたい。
計測工学(2)	平田孝道	3	パワーポイントを中心とした講義であったので、簡単な演習もふくめた内容にする予定です。
アクチュエータ機械工学	和多田雅哉	3	授業の進め方や資料の改善を含め、最低限の現状レベル維持と向上を目指していく予定です。
内科学	仁木清美	3	昨年より全体的に評価が上がっている。来年は積極的に質問するよう工夫する。理解しやすい授業にするよう努めます
生化学	小林千尋	3	今年度は全体的に高い評価となっているが、受講者数や年度によってバラつきがある。今後は今年度の評価レベルを維持出来るよう努力してゆきたい。
臨床事例と医療	森晃	3	学生からの質問が多くなるように、もっと小テストを多くしたい。
生体電子計測	京相雅樹	3	「臨床機器学及び実習」の内容にリンクさせることにより理解度が高かったのではないかと。
再・医工学英語	京相雅樹	3	母数が2なので参考にはならないが、英語嫌いを少しでも減らせるような授業を心がけたい。

6. データについての考察

6.1 平成29年度前期のデータについて

図1に項目ごとの得点を示した。項目番号とアンケート項目の対応は表2の通りである。

(1) 項目3：予習・復習

予習復習時間の平均値は予想よりも高かった。ただ、図4を見れば分かるように、個別に見ると実習系の科目で高くなっており、これはレポートを作成するために要する時間が算入されていると考えられる。この部分を除外したと考えると、一般の座学ではまだ予習復習にかける時間が不足していると考えられ、今後総学習時間を確保するような授業形態や取り組みが奨励されることが予想されることから、授業外学習時間を増やすような工夫を加えてゆくことが必要となる。たとえばシラバスに具体的な予習、復習内容を明記するなど、学生に予習、復習として何をすれば良いのかを知らしめ、これを実施させて時間外学習時間を増やすよう改良を進めてゆく必要がある。

(2) 項目4：質問

この項目も、例年低い項目であるが、今回のアンケートの数値は昨年までよりも改善している。授業の進め方に何らかの改良が行われてきた結果と推察される。ただし、値は低い状態であるので、質問等による内容の完全理解を目指し、さらなる工夫が必要と考えられる。

(3) 教員に関する項目

全般的には平均値が4点を超えていることから問題はないと考えられる。項目8,12が相対的にやや低い評価点となっていることから、これらの点に関して対策を立てることにより、授業の質をさらに改良できると考える。

6.2 科目ごとの評価点について

科目ごとにかなりばらつきが見られ、科目ごとの授業の進め方によるところが大きいと思われる。ここでは項目ごとの評価点については示していないが、各教員には全データを公開しており、教員ごとに改善点を明確にした上で改良を進めることが必要となる。これについては各科目ごとに担当教員にコメントを求めており、収集できたコメントは表4および表5に示してある。

6.3 データの推移について

表3および図5に、昨年度までと同じアンケート項目のみについて、その数値の推移を示した。これによれば、ほぼすべての項目でここ3年間の間に改善が見られる。特に学生に関する項目は向上傾向であり、改良の傾向が見て取れる。